

## 平成 29 年度苦情及び苦情対応（解決）について（まとめ）

平成 29 年度のさいわい福祉会では、野ばら保育園・野ばら第二保育園では、下記の通り、第三者委員会を開催しました。

### 1. 開催日時

- ① 平成 30 年 6 月 4 日(月) 17:00~18:00  
出席者：久保田委員、両園園長、両園主任
- ② 平成 30 年 7 月 11 日(水) 11:00~13:00  
出席者：杉本委員、両園園長

### 2. 保護者からの苦情・要望の内容とそれらに対する各園の対応について報告し、今後の改善課題について検討しました。この会議で検討した内容としては、両園合わせて 10 件の苦情と 2 件の要望がありました。第三者委員への相談は 0 件でした。

- ①子ども同士のトラブルについて保育士の対応（2 件）
- ②園児の降園時の安全面について（3 件）
- ③布バッグの紛失についての対応
- ④子どもの洋服について
- ⑤子どもや親に対しての担任の要求（お願い）について
- ⑥お迎え時の職員の対応について
- ⑦登降園時の保護者の履物の整理について
- ⑧虫よけ用品の取扱いについて（要望）
- ⑨夏のエアコンの使い方について（要望）

以上の内容に対しては、理事会に報告し、第三者委員からの意見を踏まえて会議で検討した結果、以下の内容を確認しました。

- ① 子ども同士のトラブルは色々なケースがあるが、子どもの発達状況に応じて保育士における関わり、援助の仕方が変化していくことを説明し、クラスだよりや園だより（子育てメッセージ編）でも随時知らせていく。又、個人的にも子ども同士の関わりを注意して見て、よい集団作り、仲間関係になる様に導いていけるよう会議の中で討議し、今後も引き続き見守っていく事にする。
- ② 初動対応を丁寧に行う中で、園内での報告・相談、そして確認を周知徹底し、保護者の方への安心感へつなげていく。又、車の出入りがあるので、車事故にはしっかり注意していく。支援児の降園については、保護者に託した後にも危険な行動があるので、再度どの方法が一番いいのか協議した。職員全員で充分注意するようにし、保護者へも気を付けて頂くように伝えていく。
- ③ 保護者の立場に寄り添った言葉使いで、気持ちを込めて伝えるように心掛ける。

- ④ 子ども、親の気持ちを理解し、誤解がない言動を心掛ける。園のしおりや入園説明会の中で、園生活において適した服装、危険が伴う恐れがある事柄に関しては具体的に事例を挙げて保護者に伝わりやすい工夫をする。
- ⑤ 保育者が保育に熱心な余り、たくさんの要求になってしまい、保護者の気持ちに寄り添えなかったことを反省し、大らかかつ丁寧な保育になるよう会議の中で確認する。
- ⑥ 報告・連絡・相談に対する職員の意識向上を図り、職員間での情報共有の徹底を図る。又、保護者の方への情報伝達を徹底し、誤解がないように努める。
- ⑦ 保護者の靴入れを用意しているので、子どもへの躰の意味でもきちんと入れて頂くよう再度、お願いの手紙を出し、送迎コーナーにも貼り出した。
- ⑧ 園でも検討中の案件であったが、虫よけリングがおしゃれ的に波及していく可能性もあり、又、過度に使い過ぎることもあるので、「虫よけ用品の使用依頼書」を作成して、保護者の方へ対応していくことにした。
- ⑨ 夏のエアコンの使い方については、乳幼児の健康づくりとして「保護と鍛錬」の兼ね合い、「発汗の大切さ」など総合的な観点が必要になってくる。当園における夏の環境配慮のお知らせを毎年手紙にして出して理解してもらっている。

## 夏の過ごし方について(お知らせ)

平成30年7月18日  
野ばら保育園  
園長 幸 政恵

7、8月に入ると暑さもピークになります。夏ならではの楽しみもたくさんありますが、とり分け今夏は暑さが厳しいようです。健康に気を付けて乗り越えていきたいと思えます。4月入園時に夏の過ごし方を簡単にお知らせ致しましたが、再度、保育園での夏の過ごし方とエアコンの使い方等のお知らせを致します。

**野ばら保育園では毎年、夏の環境配慮を下記のようにしています。**

### 1. 園舎内外の涼環境を整える

遮光ネット、テント、グリーンカーテン、すだれ、よしず、ブラインド、藤・あけびの自然物での木陰作り

### 2. 水あそび・プール遊び・シャワーについて

プールは、うさぎ組前のゴムチップテラスの所に大小のプールを設置します。毎日清掃して水を入れ替え(置き水はしません)衛生・安全に気を付けています。プールができないお友だちは、シャワーや体ふきをしてさっぱりしています。かかり湯は太陽熱ソーラーと大ホースで温めた井戸水を使ってエコに徹しています。

### 3. エアコン(冷)・扇風機の使用について

毎年、夏時期は食事時間・午睡時間の体力・休息を充分にとる為、基本的に10:30~16:00をめぐりにエアコンを使用。又、ひよこ組はほぼ終日使用、りす組や延長保育では体力のことを考えて(上記時間に加えて)17:00以降の使用を考えています。おやつ後顔洗い(顔拭き)をします。夕方は、又外遊び等してお迎えの頃は汗だくになっていますので、帰宅後シャワー等で汗を拭きとってあげてください。

### 4. 当園は自然が多い分、虫等も多くなります。

園の環境美化に心掛け、虫刺され等があれば早い処置をしています。園児の健康を守る(熱中症・大気汚染を含む)ため、今後も保護と鍛錬のバランスや状況に合わせた細やかな配慮をしていくつもりです。片や、地球の温暖化・自然破壊が進み、当園でも20年以上前から先駆けてエコ・有害紫外線・環境汚染問題等を学び、心掛けながら保育・運営をしています。設立当初から井戸水・太陽熱ソーラー等設置して、無駄なエネルギーは使わないようにし、外には温水シャワーを設置して、お子様は仕上りシャワーで清潔・心地良さを感じ、又、保育士の負担の軽減を図っています。PM2.5等新たな心配も出ていますが、警報が出た時は外には出ず室内で過ごすようにしています。

### 5. 活動について

一日の活動の中に静と動の動きをバランスよく取り入れています。又、活動に行く前、行った後も水分補給を行なっています。3歳以上児さんは、水筒を持って来て飲んでます。あまり水分を取らないお子様には声をかけて飲むようにしているところです。

本園の「**自然の中でのびのびと…**」をモットーに、保育園の使命である「**命を守り、成長・発達を促す**」という2つのことをすすめるため、エアコンの使用も程よく使用し、自然の中での皮膚の鍛錬・汗腺の発達(汗は健康のバロメーター)を考え、子ども達が年齢に応じた暑さ・寒さを程よく乗り越えていければと考えています。

今後ともいろいろ工夫・配慮をしていきますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

## 太陽光発電システムを設置!!

きりん組の屋上に太陽光を設置しました。エコ活動と同時に屋上の照り返しを少しでも緩和させる為に取り付けています。玄関階段の所に発電表示ユニットがありますのでご覧ください。

園児にもエネルギーについて話し学習に活かしたいと考えています。又、屋上に温水大ホースがあり、夏はプールの後の仕上りシャワーを以上児クラスはきりん組の前で一人一人にしています。



発電表示ユニット



温水大ホースと太陽光発電

# 「いい汗かこうね!!」

## 汗のおはなし～(;^ω^)汗は健康のバロメーター～

汗は健康のバロメーターです。汗は体温の調節をしたり、自律神経のバランスを整えたり体にとっていろいろな大切な役目をします。汗腺は2歳半までに育つと言われていいますので保育園では涼をとる工夫をしながらも、汗をたくさん出して、健康的な生活をするように心掛けています。

### 汗は子どもの健康をあらわすサインです

#### 健康的な汗

- 運動をしたとき
- 夏場



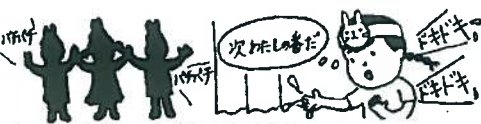
#### 具合の悪いとき

- 風邪で熱があるとき
- どっと汗が出ると、熱が下がるサインです
- 吐き気や気分の悪いとき、お腹が痛いとき



#### 緊張したとき

- 手のひらにかく汗



汗をたっぷりかいたあとのお風呂やシャワーは気持ちいいですね

具合が悪いときの子どものサインを見逃さないで!

#### 夏野菜の収穫



セミはどこかな～?



### 汗をかく機能は2歳半までに育つ!

汗腺は、赤ちゃんがお腹にいるときからでき始めます。

胎生期	16週目	手のひらや足の裏
	19週目	わきの下
	22週目	その他の皮膚面
	28週目	汗をかく機能として はたらきはじめます



能動汗腺(汗を分泌する機能を持つ汗腺)は2歳半頃まで増え続け、その後は生涯増えないのです。

生まれてからそれまでの間に汗の出る生活をしておかないと、汗の出てくれない体となってしまう、いろいろな体調不良を招いてしまいます。

「食べもの文化」No.280 小川徳雄:汗って何?どんな働きをしているの?(芽ばえ社)参考

### 汗はエライ!

#### ① 体温調節をします

皮膚の水分(汗)が空気中に蒸発する際に、熱の放散をともないます。

#### ② 体の中の水分量を調節します

体の中の水分は尿や汗となって排出されます。減った分の水分は、飲みものや食事などから補給します。

#### ③ 疲労のもとになる物質を排出します

#### ④ 自律神経のバランスを整えます

#### ⑤ 肌を保護します

汗の水分といっしょに分泌される皮脂が、皮膚の表面を守ります。



「食べもの文化」No.280 秋元恵美:夏・汗をかいて健康に(芽ばえ社)参考

### 汗をたくさんかきましょう

肌が気温の変化を感じることで、体温調節機能ははたらきます。汗をかくことが少ないと、新陳代謝のはたらきを弱め、低体温を招きます。



外で元気に遊んで、汗をたくさんかきましょう。ただし、夏は水分補給に注意して!

「食べもの文化」No.280 (芽ばえ社)参考

暑い毎日です。子ども達はエネルギーに活動して、汗びっしょりになります。でもこの汗が大事なんですね～ 日々目に見えない体づくりですが、急がば回れの気持ちでお子様の一生の健康づくりの基礎を作っていきたいと思っています。

## 安田式体育遊び研修会

### ⑤ 幼児期に決まる汗腺の発達・体温調節機能・自律神経について

近年、夏になると熱中症のニュースが聞かれるようになりましたが、これはその子の育った環境が大きく作用しています。夏は涼しい部屋にこもり体を使った遊びが不足し汗をあまりかかず、冬は寒さで鳥肌を立てる必要もない快適な空間にいるようでは、体温調節に重要な役割を担う「能動汗腺」を上手く動かそうとする機能が刺激されないのです。遊び不足かつ快適すぎる環境で育った子ほど熱中症になりやすいのです。

・そもそも人間は、生きていくうえで体内に「熱」をつくりだします。熱を作り出すのは体が高温な環境に置かれたとき、食物を体内でエネルギーに変える時、運動などの身体活動をした時です。体内では常に熱が作られています。蓄熱されれば体温は上がります。人間は気温に左右されず一定の体温を保つ恒温動物です。体温は常に一定に保たれていなければ生きていけません。人間の深部体温（体温計を脇に挟んで測る温度ではなく体内の奥、つまり臓器の温度）が37度前後ではじめて生命を正常に維持出来ます。体内の熱は高すぎても低すぎても問題なのです。そこで人間は、汗をかいて体内の熱を放出し、体温を下げた深部体温を一定に保っているのです。

大切なのは、汗を出す「汗腺」の働きです。汗をかくのに十分機能している汗腺を「能動汗腺」と言い、この能動汗腺をどれくらい持つかによって、体温の調節能力が決まってきます。この能動汗腺の数は、生まれてから3歳くらいまでの生活環境によって決まってくると医学的に言われています。ですので、汗腺の発達していない赤ちゃんが汗をかけず様々な環境変化に対応しようと突然40度くらいの知恵熱を出すのは人体の構造上正常と言えます。

正常な能動汗腺の数は、温帯で四季のある地で暮らす日本人の能動汗腺の平均数は、250万～350万程度です。熱帯地で生活した人は能動汗腺が多く、逆に寒冷地の人は能動汗腺が少なくなります。暑い地域に住む人が熱中症で倒れるという事を聞かないのは、環境に適応したたくさんの能動汗腺を持っているからです。一方、能動汗腺の少ない体は、身を守るために、防衛反応が起こります。汗腺を使った体温調節が出来ないので、「基礎代謝」を低くし、体内の熱を発生しないようにするのです。これは、近年子供達から大人までに増えている「低体温症」の原因とも考えられています。

近年では子供も大人も、平熱が35度台の人が増えてきています。平熱が低いということは、体の深部体温も下がっていることになります。深部体温が36度以下に下がると、風邪を引きやすい、ウイルスに負けやすい、代謝が落ちて太りやすい、幼児なのに肥満、小学生なのに血糖値が高い、など様々な問題を引き起こすだけでなく、自律神経失調症にもなりやすくなります。低体温では、将来的に様々な成人病にかかりやすくなってしまいます。子供の体が温度変化に対応できる力を育む環境が減りつつあります。大人の考える快適を追求し、子供の育つ環境まで整備し過ぎると一層たくましく成長する機会を奪ってしまいます。現代の子供にも、我々の子供の頃と同じ様に外で活発に遊び、汗をしっかりとかき、暑さ寒さをしっかりと体感し、自律神経の働く、熱中症になりにくい丈夫な体になってから小学校に上がって頂きたいと願っています。